

6 令和7年度「みやぎ環境税」活用事業一覧

(単位：千円)

視点	No.	区分	事業名	事業内容	当初予算額		課室名
						うち税充当額	
1 脱炭素社会の推進							
	3	継続	みやぎの有機農業等推進事業	環境と成長が好循環する持続可能な農業の確立に向けて、有機農業等の環境に配慮した農業生産に対する理解促進のための取組や有機JAS認証取得に向けた支援を行う。	55,206	2,360	みやぎ米推進課
	4	継続	農地へのバイオ炭投入に係る技術及びシステム構築事業	炭素貯留効果を有する「もみ殻」由来のバイオ炭の活用・普及に向けて、バイオ炭の農作物(大豆)生育への影響評価や暗渠疎水材としての有効性について試験研究を行うとともに、Jクレジット活用に向けた検討を行う。	2,318	867	みやぎ米推進課
	8	継続	木質バイオマス暖房機の施設園芸分野への利用促進事業	木質バイオマス暖房機による二酸化炭素削減効果を検証し、現在主流となっている重油暖房機との組み合わせによる最適な活用方法を実証し、施設園芸分野での木質バイオマス利用技術の活用促進を図る。	4,151	4,134	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
3 気候変動の影響への適応							
	29	継続	主要露地野菜生産に関する温暖化適応技術開発事業	播種・定植・収穫時期の指標見直しに向けた実証試験や、生理障害の発生状況調査等を通じて、現状の気候条件に適応する新しい作型、品種、栽培方法を策定し、技術の普及啓発を行うことで県内野菜生産量の向上を図る。	4,157	4,140	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
	30	継続	キク類栽培における気候変動への適応推進事業	キク類栽培で高温耐性を有し、赤色LED電照栽培で開花調節効果が高い品種について、需要期出荷向けの開花調節技術を県内地域別に確立する。また、高温障害発生条件を解明し、高温対策技術の効果検証と技術の普及啓発を図る。	1,762	1,762	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
	31	継続	LEDを用いたブドウ及びびんごの着色促進効果の検証事業	ブドウやリンゴについて、成熟期の高温による着色不良の回避及び品質向上を図るため、LEDライトの照射による着色促進効果を明らかにし、生産現場での活用に向けて、技術の普及推進を図る。	1,596	1,596	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
	32	継続	気候変動に適応した農業技術の効果的な社会実装事業	既に開発された、あるいは開発過程にある気候変動適応技術について、展示実証ほやオープンラボ、ホームページ等を通じて生産者等への情報発信を行い、生産現場への速やかな社会実装を図る。	8,042	8,023	農業振興課 (農業・園芸総合研究所)
	33	継続	温暖化に対応した高温に強いイネづくり開発普及推進事業	高温登熟性に優れる育成系統や既存品種を比較栽培し、有望系統を選定するとともに、栽培管理による対応策を実施した場合の品質を検証する。また、育種期間の短縮に向けて、高温登熟性に関連したDNAマーカーの開発を行う。	4,025	4,025	農業振興課 (古川農業試験場)
	34	継続	地球温暖化に対応した作物病害虫管理技術の構築	夏季の高温により被害拡大が懸念される作物病害虫について、各病害虫に対応した発生抑制技術、農薬低減防除技術、生物農薬を取り入れた防除体系の開発を行う。	2,748	2,748	農業振興課 (古川農業試験場)
	35	継続	気象災害に対応した牧草栽培技術の確立事業	記録的豪雨の増加に伴い、牧草地更新を適期に行うことができない事例が見られることから、北海道で開発されたフロストシーディング技術(初冬季播種)が宮城県においても実施可能か検証する。	834	834	畜産課 (畜産試験場)
	37	新規	みやぎの食材バリューチェーン展開プロジェクト(気候変動に対応した商品づくり事業)	気候変動に伴う露地野菜生産における作期的変化や、近海で獲れる魚種の変化など対応するため、新たな新商品開発に取り組む事業者に対して開発経費を補助し、県内の食品製造業の持続的発展を促進する。	37,696	6,262	食産業振興課
	38	新規	酪農暑熱対策推進事業	牛の暑熱ストレスによる乳量減少や繁殖成績低下等を回避するため、酪農家に対し牛舎の暑熱対策に係る経費の一部を助成するとともに、暑熱対策による成果を広く周知することで、高温条件に対応できる生産基盤の形成を図る。	4,150	4,150	畜産課
合計					126,685	40,901	

○視点2「森林の保全及び機能強化」、視点4「生物多様性、自然・海洋環境の保全」、視点5「地域循環共生圏形成のための人材の充実」は該当無し